

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科		
科目名	英語I			講 師 小澤
対象学年	1	単位数	2	講義形態 講義
1. 講義の目標	英語の基礎知識（文法、構文、単語・熟語）を身につける。英語に慣れ親しむことで、英語学習への動機付けをし、英語におけるコミュニケーション能力全体の向上を目指す。			
2. 講義内容	(1) オリエンテーション・英語能力テスト (2) 基礎文法① (3) 基礎文法② (4) 基礎文法③ (5) 基礎文法④ (6) 基礎文法⑤ (7) 基礎文法⑥ (8) 基礎文法⑦ (9) 基礎文法⑧ (10) 基礎文法⑨ (11) 基礎文法⑩ (12) 基礎文法⑪ (13) 基礎文法まとめ① (14) 前期まとめ① (15) 期末試験			
3. 教授法	講義の大部分は受講生参加型で行われる。講義の前半にその日のトピックについての基礎的な確認（英文法・構文・単語など）を講師作成のプリントアウトや、板書などを使って行う。続いて、毎日の生活に基づいた質問をし、その質問に答えるなかで、英語での表現、コミュニケーションのスキルを学ばせていく。			
4. 評価方法	授業出席 30% 授業への参加（小テストを含む） 30% 期末試験 40% 合計 100%			
5. テキスト	プリントを配布			
6. 参考文献	適宜指定する。			
7. 履修上の留意事項	・辞書（電子辞書可）を用意すること。 ・期末試験を受験しなかった場合は、授業出席、授業参加で合格点でも単位認定は認めない。			

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科		
科目名	英語Ⅱ			講師 小澤
対象学年	1	単位数	2	講義形態 講義・演習
1. 講義の目標	英語Ⅰで学んだ基礎知識を活用し、英語力の基礎上げを図る。動画の観賞なども取り入れ、吸収した知識を実際に運用してく力をつけていく。			
2. 講義内容	(1) 英語レッスンの基礎 (2) 基礎文法の活用① (3) 基礎文法の活用② (4) 基礎文法の活用③ (5) 基礎文法の活用④ (6) 基礎文法の活用⑤ (7) 基礎文法の活用⑥ (8) 基礎文法の活用⑦ (9) 基礎文法の活用⑧ (10) 基礎文法の活用⑨ (11) 基礎文法の活用⑩ (12) 基礎文法の活用⑪ (13) 基礎文法の活用まとめ (14) 前期まとめ② (15) 期末試験			
3. 教授法	英語Ⅰでの講義内容を受けて、ロールプレイやディスカッションなど、基本的に受講生参加型で授業は進行する。動画観賞や、会話リスニングなど、さまざまなフォーマットを柔軟に取り入れることで、英語への理解を深める。			
4. 評価方法	授業出席 30% 授業への参加（小テストを含む） 30% 期末試験 40% 合計 100%			
5. テキスト	プリントを配布			
6. 参考文献	適宜指定する。			
7. 履修上の留意事項	・辞書（電子辞書可）を用意すること。 ・期末試験を受験しなかった場合は、授業出席、授業参加で合格点でも単位認定は認めない。			

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科											
科目名	英語III			講 師	小澤								
対象学年	1	単位数	2	講義形態	講義								
1. 講義の目標	前期に学んだ英語の基礎知識（文法、構文、単語・熟語）を推し進め、英文法の幅広い活用を身につけていく。英語に慣れ親しむことで、英語を実践的に使うための能力向上を進める。												
2. 講義内容	(1) 前期レビュー① (2) 応用文法① (3) 応用文法② (4) 応用文法③ (5) 応用文法④ (6) 応用文法⑤ (7) 応用文法⑥ (8) 応用文法⑦ (9) 応用文法⑧ (10) 応用文法⑨ (11) 応用文法⑩ (12) 応用文法⑪ (13) 応用文法まとめ① (14) 後期・年度まとめ① (15) 期末試験												
3. 教授法	講義の大部分は受講生参加型で行われる。講義の前半にその日のトピックについての基礎的な確認（英文法・構文・単語など）を講師作成のプリントアウトや、板書などを使って行う。続いて、毎日の生活に基づいた質問をし、その質問に答えるなかで、英語での表現、コミュニケーションのスキルを学ばせていく。												
4. 評価方法	<table><tr><td>授業出席</td><td>30%</td></tr><tr><td>授業への参加（小テストを含む）</td><td>30%</td></tr><tr><td>期末試験</td><td>40%</td></tr><tr><td>合計</td><td>100%</td></tr></table>					授業出席	30%	授業への参加（小テストを含む）	30%	期末試験	40%	合計	100%
授業出席	30%												
授業への参加（小テストを含む）	30%												
期末試験	40%												
合計	100%												
5. テキスト	プリントを配布												
6. 参考文献	適宜指定する。												
7. 履修上の留意事項	・辞書（電子辞書可）を用意すること。 ・期末試験を受験しなかった場合は、授業出席、授業参加で合格点でも単位認定は認めない。												

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科			
科目名	英語Ⅳ			講 師	小澤
対象学年	1	単位数	2	講義形態	講義・演習
1. 講義の目標	英語Ⅲで学んだ応用文法をもとにして、英語を実践的に使用する能力を身につける。動画の観賞なども取り入れ、吸収した知識を実際に運用してく力をつけていく。				
2. 講義内容	(1) 前期レビュー② (2) 応用文法の活用① (3) 応用文法の活用② (4) 応用文法の活用③ (5) 応用文法の活用④ (6) 応用文法の活用⑤ (7) 応用文法の活用⑥ (8) 応用文法の活用⑦ (9) 応用文法の活用⑧ (10) 応用文法の活用⑨ (11) 応用文法の活用⑩ (12) 応用文法の活用⑪ (13) 応用文法の活用まとめ (14) 後期・年度まとめ② (15) 期末試験				
3. 教授法	英語Ⅲでの講義内容を受けて、ロールプレイやディスカッションなど、基本的に受講生参加型で授業は進行する。動画観賞や、会話リスニングなど、さまざまなフォーマットを柔軟に取り入れることで、英語への理解を深める。				
4. 評価方法	授業出席 30% 授業への参加（小テストを含む） 30% 期末試験 40% 合計 100%				
5. テキスト	プリントを配布				
6. 参考文献	適宜指定する。				
7. 履修上の留意事項	・辞書（電子辞書可）を用意すること。 ・期末試験を受験しなかった場合は、授業出席、授業参加で合格点でも単位認定は認めない。				

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科		
科目名	外国語（日本語）Ⅰ・Ⅱ			講 師 野澤
対象学年	1	単位数	2	講義形態 講義
1. 講義の目標	・日本留学生試験の読解に必要なスキルを身に付ける。筆者の主張、論理の流れ、推測、要約ができ、文書に慣れる。 ・読解能力の向上及びJLBTN2～N1対策を目標とする。 ・話しことばと書きことばの違いを意識し、小論文や簡単なレポートが書けるような日本語力を養成する。			
2. 講義内容	(1) クラス分けテスト オリエンテーション (2) 語彙・文型・内容確認・ワークブック (3) 語彙・文型・内容確認・ワークブック (4) 読みのストラテージ11・WBまとめ練習 (5) 語彙・文型・内容確認・ワークブック (6) 語彙・文型・内容確認・ワークブック (7) 読みのストラテージ12, 13・WBまとめ練習 (8) 問題集N2 (9) 問題集N2 (10) 問題集N2 (11) 語彙・文型・内容確認・ワークブック (12) 語彙・文型・内容確認・ワークブック (13) 読みのストラテージ14, 15・WBまとめ練習 (14) 期末試験 (15) 補講・見直し			
3. 教授法	教科書を使い、質疑を交えながら講義形式で進める。受講者はメモをとりながら、適宜質問にも答えてもらう。残りの半分は小テストと小論文の記述などを通じて、実践力を養い、理解を能動的に深められるようにする。状況によってはディスカッション、プレゼンテーションにも併せて取り組みたい。			
4. 評価方法	授業出席 20% 授業への参加（小テストを含む） 30% 期末試験 50% 合計 100%			
5. テキスト	教科書：中級日本語カルテット1・小論文への12のステップ・ワークブック1・日本語能力試験対策N2文法問題集 補助教材：新完全マスター語彙			
6. 参考文献	適宜指定します。			
7. 履修上の留意事項	・辞書（電子辞書可）を用意すること。 ・期末試験を受験しなかった場合は、授業出席、授業参加で合格点でも単位認定は認めない。 ・担当教員は実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。			

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科		
科目名	外国語（日本語）Ⅲ・Ⅳ			講 師 野澤
対象学年	1	単位数	2	講義形態 講義
1. 講義の目標	・日本留学生試験の読解に必要なスキルを身に付ける。筆者の主張、論理の流れ、推測、要約ができ、文書に慣れる。 ・読解能力の向上及びJLBTN2～N1対策を目標とする。 ・話しことばと書きことばの違いを意識し、小論文や簡単なレポートが書けるような日本語力を養成する。			
2. 講義内容	(1) クラス分けテスト (2) 語彙・文型・内容確認・ワークブック (3) 語彙・文型・内容確認・ワークブック (4) 読みのストラテージ16・WBまとめ練習 (5) 語彙・文型・内容確認・ワークブック (6) 語彙・文型・内容確認・ワークブック (7) 読みのストラテージ17, 18・WBまとめ練習 (8) 問題集N2 (9) 問題集N2 (10) 問題集N2 (11) 語彙・文型・内容確認・ワークブック (12) 語彙・文型・内容確認・ワークブック (13) 読みのストラテージ19, 20・WBまとめ練習 (14) 期末試験 (15) 補講・見直し			
3. 教授法	教科書を使い、質疑を交えながら講義形式で進める。受講者はメモをとりながら、適宜質問にも答えてもらう。残りの半分は小テストと小論文の記述などを通じて、実践力を養い、理解を能動的に深められるようにする。状況によってはディスカッション、プレゼンテーションにも併せて取り組みたい。			
4. 評価方法	授業出席 20% 授業への参加（小テストを含む） 30% 期末試験 50% 合計 100%			
5. テキスト	教科書：中級日本語カルテット2・小論文への12のステップ・ワークブック2・日本語能力試験対策N2文法問題集 補助教材：新完全マスター語彙			
6. 参考文献	適宜指定します。			
7. 履修上の留意事項	・辞書（電子辞書可）を用意すること。 ・期末試験を受験しなかった場合は、授業出席、授業参加で合格点でも単位認定は認めない。 ・担当教員は実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。			

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科			
科目名	造形基礎 I			講 師	三上
対象学年	2	単位数	2	講義形態	実習
1. 講義の目標	ファインアート専攻・デザイン専攻の各分野において表現技術の基礎に必要な知識と技術を身に付け、各自が各分野の専門家として活躍できる力を身につける。				
2. 講義内容	(1)           オリエンテーション (2)           各専攻・専門分野：講義（選択制） (3)           各専攻・専門分野：技法・材料講義と解説（選択制） (4)           各専攻・専門分野：作品制作1（個別カリキュラム） (5)           各専攻・専門分野：作品制作2（個別カリキュラム） (6)           各専攻・専門分野：作品制作3（個別カリキュラム） (7)           各専攻・専門分野：講評（個別カリキュラム） (8)           各専攻・専門分野：作品制作4（個別カリキュラム） (9)           各専攻・専門分野：作品制作5（個別カリキュラム） (10)          各専攻・専門分野：作品制作6（個別カリキュラム） (11)          各専攻・専門分野：講評（個別カリキュラム） (12)          各専攻・専門分野：作品制作7（個別カリキュラム） (13)          各専攻・専門分野：作品制作8（個別カリキュラム） (14)          各専攻・専門分野：作品制作9（個別カリキュラム） (15)          各専攻・専門分野：講評（個別カリキュラム）				
3. 教授法	学生の研究内容に合わせて個別に指導、個別にデモンストレーションを行いながら作品を制作する。課題数、講評回数は研究内容に合わせて異なる。課題制作後は、講評会という形で各自作品の検証を行う。				
4. 評価方法	授業出席と発言				

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科			
科目名	造形基礎Ⅱ			講 師	三上
対象学年	2	単位数	2	講義形態	講義・実習
1. 講義の目標	ファインアート専攻・デザイン専攻の各分野において表現技術の基礎に必要な知識と技術を身に付け、各自が各分野の専門家として活躍できる力を身につける。				
2. 講義内容	(1)	オリエンテーション			
	(2)	各専攻・専門分野：講義（選択制）			
	(3)	各専攻・専門分野：技法・材料講義と解説（選択制）			
	(4)	各専攻・専門分野：作品制作1（個別カリキュラム）			
	(5)	各専攻・専門分野：作品制作2（個別カリキュラム）			
	(6)	各専攻・専門分野：作品制作3（個別カリキュラム）			
	(7)	各専攻・専門分野：講評（個別カリキュラム）			
	(8)	各専攻・専門分野：作品制作4（個別カリキュラム）			
	(9)	各専攻・専門分野：作品制作5（個別カリキュラム）			
	(10)	各専攻・専門分野：作品制作6（個別カリキュラム）			
	(11)	各専攻・専門分野：講評（個別カリキュラム）			
	(12)	各専攻・専門分野：作品制作7（個別カリキュラム）			
	(13)	各専攻・専門分野：作品制作8（個別カリキュラム）			
	(14)	各専攻・専門分野：作品制作9（個別カリキュラム）			
	(15)	各専攻・専門分野：講評（個別カリキュラム）			
3. 教授法	学生の研究内容に合わせて個別に指導、個別にデモンストレーションを行いながら作品を制作する。課題数、講評回数は研究内容に合わせて異なる。課題制作後は、講評会という形で各自作品の検証を行う。授業での質疑応対に積極的に参加することを期待します。				
4. 評価方法	授業出席と発言			30%	
	授業中の参加度、課題提出			70%	
	合計			100%	
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				



2025年度	前期	国際コミュニケーション学科			
科目名	特別演習Ⅰ			講 師	三上・加未
対象学年	1	単位数	2	講義形態	講義・実習
1. 講義の目標	専攻別の実習を基本としながら、絵画表現、視覚デザイン・総合デザインなどの専門分野を学ぶとともに、色彩学、人物画制作など共通科目として知識を身につける。				
2. 講義内容	(1) オリエンテーション 各自の専攻選択 (2) 特別演習① 油絵・日本画・デザイン実習1 (3) 特別演習② 油絵・日本画・デザイン実習2 (4) 特別演習③ 油絵・日本画・デザイン実習3 (5) 特別演習④ 油絵・日本画・デザイン実習4 (6) 特別演習⑤ 絵画表現基礎1・デザイン実習5 (7) 特別演習⑥ 絵画表現基礎2・デザイン実習6 (8) 特別演習⑦ 絵画表現基礎3・デザイン実習7 (9) 特別演習⑧ 色彩学1 (10) 特別演習⑨ 色彩学2 (11) 特別演習⑩ 色彩学3 (12) 特別演習⑪ 色彩学4 (13) 特別演習⑫ 人物画制作・視覚デ基礎・総合デ基礎1 (14) 特別演習⑬ 人物画制作・視覚デ基礎・総合デ基礎1 (15) 特別演習⑭ 人物画制作・視覚デ基礎・総合デ基礎1				
3. 教授法	各専攻分野に合わせた実習を行いながら、基礎的な技術と知識を身につける。各課題は選択科目になっており、各自が必要に応じた実習を習得することができる。実習課題後は、制作した作品を用い講義を行い、検証を行う。				
4. 評価方法	授業出席と発言 授業参加度、実技作品の成績 合計				30% 70% 100%
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科			
科目名	特別演習Ⅱ			講 師	三上・加未
対象学年	1	単位数	2	講義形態	講義・実習
1. 講義の目標	専攻別の実習を基本としながら、絵画表現、視覚デザイン・総合デザインなどの専門分野を学ぶとともに、色彩学、人物画制作など共通科目として知識を身につける。				
2. 講義内容	(1) オリエンテーション (2) 特別演習① 絵画表現基礎1・デザイン基礎1 (3) 特別演習② 絵画表現基礎2・デザイン基礎2 (4) 特別演習③ 絵画表現基礎3・デザイン基礎3 (5) 特別演習④ 絵画表現基礎4・デザイン基礎4 (6) 特別演習⑤ プレゼンテーション基礎1 (7) 特別演習⑥ プレゼンテーション基礎2 (8) 特別演習⑦ プレゼンテーション基礎3 (9) 特別演習⑧ 油絵・日本画・デザイン実習1 (10) 特別演習⑨ 油絵・日本画・デザイン実習2 (11) 特別演習⑩ 油絵・日本画・デザイン実習3 (12) 特別演習⑪ 油絵・日本画・デザイン実習4 (13) 特別演習⑫ 絵画表現基礎5・デザイン基礎5 (14) 特別演習⑬ 絵画表現基礎6・デザイン基礎6 (15) 特別演習⑭ 絵画表現基礎7・デザイン基礎7				
3. 教授法	各専攻分野に合わせた実習を行いながら、基礎的な技術と知識を身につける。各課題は選択科目になっており、各自が必要に応じた実習を習得することができる。実習課題後は、制作した作品を用い講義を行い、検証を行う。授業での質疑応対に積極的に参加することを期待します。				
4. 評価方法	授業出席と発言 30% 授業参加度、実技作品の成績 70% 合計 100%				
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科			
科目名	特別演習Ⅲ			講 師	萱沼・小西
対象学年	2	単位数	2	講義形態	実習
1. 講義の目標	油絵・日本画・デザインの各専門的な実習を基本としながら、絵画表現、視覚デザイン・総合デザインなどの専門分野を学ぶとともに、色彩学、人物画制作など共通科目として知識を身につける。				
2. 講義内容	(1) オリエンテーション (2) 特別演習① 油絵・日本画・デザイン応用実習1 (3) 特別演習② 油絵・日本画・デザイン応用実習2 (4) 特別演習③ 油絵・日本画・デザイン応用実習3 (5) 特別演習④ 油絵・日本画・デザイン応用実習4 (6) 特別演習⑤ 油絵・日本画・デザイン応用実習5 (7) 特別演習⑥ 油絵・日本画・デザイン応用実習6 (8) 特別演習⑦ 絵画表現応用・グリッドシステム1 (9) 特別演習⑧ 絵画表現応用・グリッドシステム2 (10) 特別演習⑨ 絵画表現応用・グリッドシステム3 (11) 特別演習⑩ 絵画表現応用・グリッドシステム4 (12) 特別演習⑪ 人物画制作1・視覚デザイン・総合デザイン応用1 (13) 特別演習⑫ 人物画制作1・視覚デザイン・総合デザイン応用2 (14) 特別演習⑬ 人物画制作1・視覚デザイン・総合デザイン応用3 (15) 特別演習⑭ 人物画制作1・視覚デザイン・総合デザイン応用4				
3. 教授法	各専攻分野に合わせた実習を行いながら、基礎的な技術と知識を身につける。各課題は選択科目になっており、各自が必要に応じた実習を習得することができる。実習課題後は、制作した作品を用い講義を行い、検証を行う。				
4. 評価方法	授業出席と発言 授業参加度、実技作品の成績			30% 70%	
	合計			100%	
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科		
科目名	特別演習Ⅳ			講 師 萱沼・小西
対象学年	2	単位数	2	講義形態 実習
1. 講義の目標	デザイン系の仕事で重視されるデッサン力、色彩表現力、企画立案、プレゼンテーションを身につける。デザイン系では、デッサン力が大きなポイントとなるため、デッサンの実習を行う。			
2. 講義内容	(1)                   オリエンテーション (2)                   特別演習① 油絵・日本画・デザイン応用実習1 (3)                   特別演習② 油絵・日本画・デザイン応用実習2 (4)                   特別演習③ 油絵・日本画・デザイン応用実習3 (5)                   特別演習④ 油絵・日本画・デザイン応用実習4 (6)                   特別演習⑤ 絵画表現応用・視覚デザイン・総合デザイン応用1 (7)                   特別演習⑥ 絵画表現応用・視覚デザイン・総合デザイン応用2 (8)                   特別演習⑦ 絵画表現応用・視覚デザイン・総合デザイン応用3 (9)                   特別演習⑧ 絵画表現応用・視覚デザイン・総合デザイン応用4 (10)                  特別演習⑨ 絵画表現応用・視覚デザイン・総合デザイン応用5 (11)                  特別演習⑩ 絵画表現応用・視覚デザイン・総合デザイン応用6 (12)                  特別演習⑪ プレゼンボード・ポートフォリオ制作1 (13)                  特別演習⑫ プレゼンボード・ポートフォリオ制作2 (14)                  特別演習⑬ プレゼンボード・ポートフォリオ制作3 (15)                  特別演習⑭ プレゼンボード・ポートフォリオ制作4			
3. 教授法	基礎デッサン、色彩演習の習得とともに各専攻分野に合わせた実習を行う。各課題は選択制になっており、各自が必要に応じた実習を習得する。実習課題後は、制作した作品を用い講義を行い、検証を行う。授業での質疑応対に積極的に参加することを期待します。			
4. 評価方法	授業出席と発言 授業参加度、実技作品の成績			30% 70%
	合計			100%
5. テキスト	適宜プリントを配布します。			
6. 参考文献	適宜に指定します。			
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。			

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科			
科目名	異文化コミュニケーションⅠ			講 師	三上・加来
対象学年	1	単位数	2	講義形態	講義・実習
1. 講義の目標	授業では、日本文化、異文化を理解をするという目標と異なる文化を持った人とのコミュニケーション方法を考えます。また同時に文化・芸術を理解することにより、世界の人に何を伝え、どう交わるかを考えを学びます。				
2. 講義内容	(1) オリエンテーション (2) 異文化を考える 西洋美術史① 芸術文化の歴史 (3) 異文化を考える 日本美術史② 芸術文化の歴史 (4) 異文化を考える 美術解剖学③ 人間とは (5) 異文化を考える 日本工芸史④ 日本の技術文化歴史 (6) 異文化コミュニケーション ピクトグラム⑤ 非言語について (7) 異文化コミュニケーション ピクトグラム⑥ 実習 (8) 異文化コミュニケーション ピクトグラム⑦ 実習 (9) 異文化コミュニケーション ピクトグラム⑧ 講評 (10) 異文化を知る 西洋美術史⑨ 文化の変遷 (11) 異文化を知る 日本美術史⑩ 文化の変遷 (12) 異文化を知る 日本工芸史⑪ 文化の変遷 (13) 異文化コミュニケーション 美術解剖学12 (14) 異文化コミュニケーション 美術解剖学13 (15) 試験				
3. 教授法	文化・芸術の諸相に関連する文献を読む。文化と言語の関連の枠組みで異文化を捉え、考察することを目指す。言語、非言語コミュニケーションの相対する立場を考慮しながら、異なる文化背景の人々を受け入れることができる素地を養う。講義と実習によって課題を行う。				
4. 評価方法	授業出席と発言 実技作品の成績 合計			30% 70% 100%	
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科			
科目名	異文化コミュニケーションⅡ			講 師	三上・加未
対象学年	1	単位数	2	講義形態	講義・実習
1. 講義の目標	授業では、日本文化、異文化を理解をするという目標と異なる文化を持った人とのコミュニケーション方法を考えます。また同時に文化・芸術を理解することにより、世界の人に何を伝え、どう交わるかを考えを学びます。				
2. 講義内容	(1)                   オリエンテーション (2)                   異文化を考える   西洋美術史①   芸術文化の歴史 (3)                   異文化を考える   日本美術史②   芸術文化の歴史 (4)                   異文化を考える   美術解剖学③   人間とは (5)                   異文化を考える   日本工芸史④   日本の技術文化歴史 (6)                   異文化コミュニケーション   ピクトグラム⑤   非言語について (7)                   異文化コミュニケーション   ピクトグラム⑥   実習 (8)                   異文化コミュニケーション   ピクトグラム⑦   実習 (9)                   異文化コミュニケーション   ピクトグラム⑧   講評 (10)                  異文化コミュニケーション   色彩で伝達する10   実習 (11)                  異文化コミュニケーション   色彩で伝達する11   実習 (12)                  異文化コミュニケーション   色彩で伝達する12   講評 (13)                  異文化コミュニケーション   美術解剖学12 (14)                  異文化コミュニケーション   美術解剖学13 (15)                  試験				
3. 教授法	文化・芸術の諸相に関連する文献を読む。文化と言語の関連の枠組みで異文化を捉え、考察することを目指す。言語、非言語コミュニケーションの相対する立場を考慮しながら、異なる文化背景の人々を受け入れることが□できる□素地を養う。講義と実習によって課題を行う。学生諸君が授業での質疑応対に積極的に参加することを期待します。				
4. 評価方法	授業出席と発言 実技作品の成績 合計			30% 70% 100%	
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科			
科目名	ライフデザインⅠ			講 師	三上・仲間
対象学年	1	単位数	2	講義形態	講義・実習
1. 講義の目標	知識だけではなく、造形などを通じて、美的完成を体得します。「内面的豊かさ」「社会的（人間関係的）豊かさ」「文化的豊かさ」「自然的豊かさ」を、造形の領域から答えを導き出すことを目的としています。				
2. 講義内容	(1)                   オリエンテーション (2)                   ライフデザイン①   表現と実習 1 (3)                   ライフデザイン②   表現と実習 2 (4)                   ライフデザイン③   表現と実習 3 (5)                   ライフデザイン④   講評・プレゼンテーション (6)                   ライフデザイン⑤   取材とクロッキー 1 (7)                   ライフデザイン⑥   取材とクロッキー 2 (8)                   ライフデザイン⑦   取材とクロッキー 3 (9)                   ライフデザイン⑧   講評・プレゼンテーション (10)                  ライフデザイン⑨   観察と実習 1 (11)                  ライフデザイン⑩   観察と実習 2 (12)                  ライフデザイン⑪   観察と実習 3 (13)                  ライフデザイン⑫   観察と実習 4 (14)                  ライフデザイン⑬   講評・プレゼンテーション (15)                  試験				
3. 教授法	様々な造形表現の中から、「真の豊かさ」「社会的豊かさ」「文化的豊かさ」「自然的豊かさ」「内面的豊かさ」を学び取ります。「地域」「自然・社会」の各領域のどのような要素が相互に関連しながら、質的な豊かさに繋がるのかを個別カリキュラムによる実習を通して学びます。				
4. 評価方法	授業出席と発言 授業参加度、実技作品の成績			30% 70%	
	合計			100%	
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科			
科目名	ライフデザインⅡ			講 師	三上・仲間
対象学年	1	単位数	2	講義形態	講義・実習
1. 講義の目標	知識だけではなく、造形などを通じて、美的完成を体得します。「内面的豊かさ」「社会的（人間関係的）豊かさ」「文化的豊かさ」「自然的豊かさ」を、造形の領域から答えを導き出すことを目的としています。				
2. 講義内容	(1)                   オリエンテーション (2)                   ライフデザイン①   表現と実習 1 (3)                   ライフデザイン②   表現と実習 2 (4)                   ライフデザイン③   表現と実習 3 (5)                   ライフデザイン④   講評・プレゼンテーション (6)                   ライフデザイン⑤   取材とクロッキー 1 (7)                   ライフデザイン⑥   取材とクロッキー 2 (8)                   ライフデザイン⑦   取材とクロッキー 3 (9)                   ライフデザイン⑧   講評・プレゼンテーション (10)                  ライフデザイン⑨   観察と実習 1 (11)                  ライフデザイン⑩   観察と実習 2 (12)                  ライフデザイン⑪   観察と実習 3 (13)                  ライフデザイン⑫   観察と実習 4 (14)                  ライフデザイン⑬   講評・プレゼンテーション (15)                  試験				
3. 教授法	様々な造形表現の中から、「真の豊かさ」「社会的豊かさ」「文化的豊かさ」「自然的豊かさ」「内面的豊かさ」を学び取ります。「地域」「自然・社会」の各領域のどのような要素が相互に関連しながら、質的な豊かさに繋がるのかを個別カリキュラムによる実習を通して学びます。				
4. 評価方法	授業出席と発言 授業参加度、実技作品の成績			30% 70%	
	合計			100%	
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				



2025年度	後期	国際コミュニケーション学科			
科目名	修了演習			講 師	三上
対象学年	1	単位数	3	講義形態	実習
1. 講義の目標	各専攻の特色と技法などを踏まえ、自らが想像する世界観を表現できる力を養う。また、普段の制作では取り組むことのできない大型の作品や多くの調査を必要とする作品を制作し、自分の可能性を広げることを目標とする。				
2. 講義内容	(1) オリエンテーション (2) 実技演習① 作品案検討 (3) 実技演習② プレゼンテーション (4) 作品制作実習③ (5) 作品制作実習④ (6) 作品制作実習⑤ (7) 作品制作実習⑥ (8) 作品制作実習⑦ (9) 作品制作実習⑧ (10) 作品制作実習⑨ (11) 作品制作実習⑩ (12) 作品制作実習⑪ (13) 作品制作実習⑫ (14) 作品制作実習⑬ (15) 講評会				
3. 教授法	各専攻の研究内容にあわせた大型作品制作または個別カリキュラムによる作品制作。2年生に向けて自分の研究主体となるものを選択し、その背景までを含めて調査する。その中から選ばれた要素をもとにして、一つの作品としてまとめる。平面作品、立体作品は問わない。				
4. 評価方法	授業出席と発言 30% 授業参加度、作品提出 70% 合計 100%				
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科			
科目名	プレゼンテーションⅠ			講 師	萱沼・小西
対象学年	2	単位数	2	講義形態	実習
1. 講義の目標	プレゼンボード制作、ポートフォリオ制作実習を通して、自分の作品・製品のプレゼンテーションを行える力を養う。				
2. 講義内容	(1) オリエンテーション (2) プレゼンテーション① プレゼンテーション講義1 (3) プレゼンテーション② プレゼンボード実習1 (4) プレゼンテーション③ プレゼンボード実習2 (5) プレゼンテーション④ デザイン画1 (6) プレゼンテーション⑤ デザイン画2 (7) プレゼンテーション⑥ 企画・コンセプト実習1 (8) プレゼンテーション⑦ 企画・コンセプト実習2 (9) プレゼンテーション⑧ プレゼンテーション1 (10) プレゼンテーション⑨ プレゼンテーション2 (11) プレゼンテーション⑩ プレゼンボード実習3 (12) プレゼンテーション⑪ プレゼンボード実習4 (13) プレゼンテーション⑫ プレゼンテーション3 (14) プレゼンテーション⑬ プレゼンテーション4 (15) 学期末試験				
3. 教授法	プレゼンボード制作、ポートフォリオ制作実習、PDFやパワーポイントなどの使用方法を学び、効率の良いプレゼンテーション資料制作を学ぶ。また、プレゼンテーションにおける話し方、姿勢など対象が納得出来るロジックを学ぶ。プレゼンテーションでは実習を通して学び、各自検証を行う。				
4. 評価方法	授業出席と発言 期末試験			30% 70%	
	合計			100%	
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科		
科目名	プレゼンテーションⅡ			講師 萱沼・小西
対象学年	2	単位数	2	講義形態 実習
1. 講義の目標	プレゼンボード制作、ポートフォリオ制作実習を通して、自分の作品・製品のプレゼンテーションを行える力を養う。			
2. 講義内容	(1)                   オリエンテーション (2)                   プレゼンテーション①   プレゼンテーション講義1 (3)                   プレゼンテーション②   デザイン画 1 (4)                   プレゼンテーション③   デザイン画 2 (5)                   プレゼンテーション④   ポートフォリオ制作 1 (6)                   プレゼンテーション⑤   ポートフォリオ制作 2 (7)                   プレゼンテーション⑥   コンセプト実習1 (8)                   プレゼンテーション⑦   コンセプト実習2 (9)                   プレゼンテーション⑧   プレゼンテーション1 (10)                  プレゼンテーション⑨   プレゼンテーション2 (11)                  プレゼンテーション⑩   ポートフォリオ制作3 (12)                  プレゼンテーション⑪   ポートフォリオ制作4 (13)                  プレゼンテーション⑫   プレゼンテーション3 (14)                  プレゼンテーション⑬   プレゼンテーション4 (15)                  学期末試験			
3. 教授法	プレゼンボード制作、ポートフォリオ制作実習、PDFやパワーポイントなどの使用方法を学び、効率の良いプレゼンテーション資料制作を学ぶ。また、プレゼンテーションにおける話し方、姿勢など対象が納得出来るロジックを学ぶ。プレゼンテーションでは実習を通して学び、各自検証を行う。			
4. 評価方法	授業出席と発言 実技作品の成績			30% 70%
	合計			100%
5. テキスト	適宜プリントを配布します。			
6. 参考文献	適宜に指定します。			
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。			

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科		
科目名	TOEIC I			講 師 小澤
対象学年	2	単位数	2	講義形態 クラス
1.講義の目標	TOEIC Listening & Reading Testへの対策を通じて英語の運用力を養成する。英語運用力を伸ばすことで、キャリアのさまざまなシーンで必要とされる英語の聞き取り、読み取りの能力を身につける			
2. 講義内容	(1) ー (2) Orientation/Proficiency Test (3) 英語レッスンの基礎 (4) Grammar/Structure & Exercise for Reading in TOEIC① (5) Grammar/Structure & Exercise for Reading in TOEIC② (6) Grammar/Structure & Exercise for Reading in TOEIC③ (7) Grammar/Structure & Exercise for Reading in TOEIC④ (8) Grammar/Structure & Exercise for Reading in TOEIC⑤ (9) Grammar/Structure & Exercise for Reading in TOEIC⑥ (10) Grammar/Structure & Exercise for Reading in TOEIC⑦ (11) Grammar/Structure & Exercise for Reading in TOEIC⑧ (12) Grammar/Structure & Exercise for Reading in TOEIC⑨ (13) Grammar/Structure & Exercise for Reading in TOEIC⑩ (14) 前期まとめ (15) 期末試験			
3. 教授法	初回にテストを行い、受講者の理解度の低い領域を中心に文法解説をする。Reading SectionのTOEIC対策を中心にしながらも、適宜ニュース記事や音源、動画といった教材を取り入れて進める。			
4. 評価方法	授業出席 50% 授業への参加（発言・課題への取り組み） 25% 期末試験 25% 合計 100%			
5. テキスト	プリントを配布			
6. 参考文献	適宜指定する。			
7. 履修上の留意事	・辞書（電子辞書可）を用意すること。 ・期末試験を受験しなかった場合は、授業出席、授業参加で合格点でも単位認定は認めない。			

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科		
科目名	TOEIC II			講 師 小澤
対象学年	2	単位数	2	講義形態 クラス
1. 講義の目標	TOEIC Listening & Reading Testへの対策を通じて英語の運用力を養成する。英語運用力を伸ばすことで、キャリアのさまざまなシーンで必要とされる英語の聞き取り、読み取りの能力を身につける			
2. 講義内容	(1) プレゼンテーションの基本① (2) プレゼンテーションの基本② (3) Grammar/Structure & Exercise for Listening in TOEIC (4) Grammar/Structure & Exercise for Listening in TOEIC (5) Grammar/Structure & Exercise for Listening in TOEIC (6) Grammar/Structure & Exercise for Listening in TOEIC (7) Grammar/Structure & Exercise for Listening in TOEIC (8) Grammar/Structure & Exercise for Listening in TOEIC (9) Grammar/Structure & Exercise for Listening in TOEIC (10) Grammar/Structure & Exercise for Listening in TOEIC (11) Grammar/Structure & Exercise for Listening in TOEIC (12) Grammar/Structure & Exercise for Listening in TOEIC (13) Grammar/Structure & Exercise for Listening in TOEIC (14) 後期・年度まとめ (15) 期末試験			
3. 教授法	前期の講義を受けて、引き続き受講者の理解度の低い分野に重点を置いて文法解説をする。Listening SectionのTOEIC対策を中心にしながらも、適宜ニュース記事や音源、動画といった教材を取り入れて進め			
4. 評価方法	授業出席 50% 授業への参加（発言・課題への取り組み） 25% 期末試験 25% 合計 100%			
5. テキスト	プリントを配布			
6. 参考文献	適宜指定する。			
7. 履修上の留意事	・辞書（電子辞書可）を用意すること。 ・期末試験を受験しなかった場合は、授業出席、授業参加で合格点でも単位認定は認めない。			

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科			
科目名	キャリアデザインⅠ			講 師	三上
対象学年	2	単位数	2	講義形態	講義・実習
1. 講義の目標	美術を主体的に人生を描き、造形などを通じて自己表現を実現していくことを目指しています。造形制作の中から「内面的豊かさ」「社会的豊かさ」「文化的豊かさ」「自然的豊かさ」を導き出すことを目的としています。				
2. 講義内容	(1)                   オリエンテーション (2)                   キャリアデザイン①   表現と実習 1 (3)                   キャリアデザイン②   表現と実習 2 (4)                   キャリアデザイン③   表現と実習 3 (5)                   キャリアデザイン④   講評・プレゼンテーション (6)                   キャリアデザイン⑤   ポートフォリオ作成方法について (7)                   キャリアデザイン⑥   写真加工・AIの使用方法 (8)                   キャリアデザイン⑦   ポートフォリオ作成1 (9)                   キャリアデザイン⑧   ポートフォリオ作成2 (10)                  キャリアデザイン⑨   ポートフォリオ作成3 (11)                  キャリアデザイン⑩   ポートフォリオ作成4 (12)                  キャリアデザイン⑪   面接練習・履歴書の書き方1 (13)                  キャリアデザイン⑫   面接練習・履歴書の書き方2 (14)                  キャリアデザイン⑬   面接練習・履歴書の書き方3 (15)                  キャリアデザイン⑭   面接練習・履歴書の書き方4				
3. 教授法	作品制作を通して、作品による自己分析を行いながらポートフォリオを作成する。その中で自分に足りない部分、満たしている部分を明らかにし作品制作に役立てる。また、自分自身をどのように他人に伝えていくのかを面接練習を通して、自己発言力を身につけていく。				
4. 評価方法	授業出席と発言 授業参加度、実技作品の成績			30% 70%	
	合計			100%	
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科			
科目名	キャリアデザインⅡ			講 師	三上
対象学年	2	単位数	2	講義形態	講義・実習
1. 講義の目標	自分の仕事と人生を主体的に描き、造形などを通じて実現していくことを目指しています。造形制作の中から「内面的豊かさ」「社会的豊かさ」「文化的豊かさ」「自然的豊かさ」を導き出すことを目的としています。				
2. 講義内容	(1)                   オリエンテーション (2)                   キャリアデザイン①   表現と実習 1 (3)                   キャリアデザイン②   表現と実習 2 (4)                   キャリアデザイン③   表現と実習 3 (5)                   キャリアデザイン④   講評・プレゼンテーション (6)                   キャリアデザイン⑤   ポートフォリオ作成1 (7)                   キャリアデザイン⑥   ポートフォリオ作成2 (8)                   キャリアデザイン⑦   表現と実習4 (9)                   キャリアデザイン⑧   表現と実習5 (10)                  キャリアデザイン⑨   ポートフォリオ作成3 (11)                  キャリアデザイン⑩   ポートフォリオ作成4 (12)                  キャリアデザイン⑪   面接練習・履歴書の書き方1 (13)                  キャリアデザイン⑫   面接練習・履歴書の書き方2 (14)                  キャリアデザイン⑬   面接練習・履歴書の書き方3 (15)                  キャリアデザイン⑭   面接練習・履歴書の書き方4				
3. 教授法	作品制作を通して、作品による自己分析を行いながらポートフォリオを作成する。その中で自分に足りない部分、満たしている部分を明らかにし作品制作に役立てる。また、自分自身をどのように他人に伝えていくのかを面接練習を通して、自己発言力を身につけていく。				
4. 評価方法	授業出席と発言 授業参加度、実技作品の成績			30% 70%	
	合計			100%	
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				

2025年度	後期	国際国際コミュニケーション学科			
科目名	卒業演習			講 師	三上
対象学年	2	単位数	3	講義形態	実習
1. 講義の目標	各専攻の特色と技法などを踏まえ、自らが想像する世界観を表現できる力を養う。また、普段の制作では取り組むことのできない大型の作品や多くの調査を必要とする作品を制作し、自分の可能性を広げることを目標とする。				
2. 講義内容	(1)                   オリエンテーション (2)                   実技演習① 作品案検討 (3)                   実技演習② プレゼンテーション (4)                   作品制作実習③ (5)                   作品制作実習④ (6)                   作品制作実習⑤ (7)                   作品制作実習⑥ (8)                   作品制作実習⑦ (9)                   作品制作実習⑧ (10)                  作品制作実習⑨ (11)                  作品制作実習⑩ (12)                  作品制作実習⑪ (13)                  作品制作実習⑫ (14)                  作品制作実習⑬ (15)                  講評会（作品展示）				
3. 教授法	各専攻の研究内容にあわせた大型作品制作または個別カリキュラムによる作品制作。2年生に向けて自分の研究主体となるものを選択し、その背景までを含めて調査する。その中から選ばれた要素をもとにして、一つの作品としてまとめ上げる。平面作品、立体作品は問わない。作品は、外部美術館等で展示を行い、展示会場の設営、運営、解説までを行う。平面作品、立体作品は問わない。				
4. 評価方法	授業出席と発言 授業参加度、作品提出  合計			30% 70%  100%	
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				



2025年度	前期	国際コミュニケーション学科		
科目名	異文化理解 I			講 師 梅田
対象学年	1	単位数	2	講義形態 クラス
1. 講義の目標	本授業は日本の文化について歴史的な視点から学び「日本らしさ」の一端を理解することが目的である。日本文化は歴史的にみると、国内の社会構造の変化や大陸などからの外来文化の流入な様々な要因によって変化してきた。そして、各時代に代表的な文化財を残している。つまり、日本文化は時代に応じて緩やかに変化しており、その過程で異文化を上手く受け入れ、自国文化と融合させ、発展させてきたのである。そこで本授業では、日本文化の形成過程を歴史的な流れに沿って学ぶことで、現在の日本文化の基礎が作られる過程を学ぶことを目指す。			
2. 講義内容	(1)           オリエンテーション (2)           日本文化の歴史的形成の過程 (3)           日本社会の歴史的変化 (4)           江戸の形成 (5)           祭り (6)           歌舞伎 (7)           和暦 (8)           日本の年中行事 (9)           世界遺産 (10)          刀 (11)          日本の中の比較文化 (12)          映像（1） (13)          映像（2） (14)          復習（1） (15)          復習（2）			
3. 到達目標	① 日本文化の形成の過程を歴史的視点から理解する ② 日本文化と問われた際、自身なりの答えを言えるようになる			
4. 評価方法	授業参加度（出席、授業中の発言等） 期末試験 合計			50% 50% 100%
5. テキスト	特定の教科書等は使用せず、必要に応じてレジュメなどを配布する。			
6. 履修上の留意事項	担当教員は実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。			

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科			
科目名	異文化理解Ⅱ			講 師	梅田
対象学年	1	単位数	2	講義形態	クラス
1. 講義の目標	本授業は、日本らしいと言われるものを取り上げ、主に、歴史的な経緯を踏まえながら理解を深めることを目的とする。「日本らしさ」、「日本らしいもの」と言われた際、思いつくものはあるものの、その背景などについては理解していないこともある。そこで、日本らしいと言われるものを改めて学ぶことによって、日本の文化について改めて考えることを目指す。				
2. 講義内容	(1) 家紋 (2) 家族 (3) オタク (4) キャッシュレス社会 (5) 組織文化 (6) 都市形成 (7) 住宅事情 (8) 武道 (9) 笑い (10) 日本の中の比較文化 (11) 家族 (12) 映画から見る日本（1） (13) 映画から見る日本（2） (14) 復習 (15) 期末試験				
3. 到達目標	① 現代の日本社会の形成のプロセスを理解する ② 現代の日本社会における「日本らしさ」を自身なりの答えを言えるようになる				
4. 評価方法	授業参加度（出席、授業中の発言等）			50%	
	期末試験			50%	
	合計			100%	
5. テキスト	特定の教科書等は使用せず、必要に応じてレジュメなどを配布する。				
6. 履修上の留意事項	担当教員は実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科									
科目名	イラストレーションⅠ			講 師	柳田・木南						
対象学年	2	単位数	2	講義形態	クラス						
1. 講義の目標	現在の情報化社会では、文字情報を補助するイラストレーションなどが多く利用されている。そして、この図形、絵による視覚情報がこれからのデザインにおいて重要であることを理解、表現できることを目標とする。										
2. 講義内容	(1)           オリエンテーション (2)           イラストレーションの歴史 (3)           イラストレーションの歴史 (4)           デッサン① (5)           デッサン② (6)           漫画講座「物語と紙面」 (7)           イラストレーション実習①（漫画課題別途） (8)           イラストレーション実習②（漫画課題別途） (9)           デッサン③（漫画課題別途） (10)          デッサン④（漫画課題別途） (11)          デッサン⑤（漫画課題別途） (12)          イラストレーション実習③ (13)          イラストレーション実習④ (14)          イラストレーション実習⑤ (15)          講評会										
3. 教授法	イラストレーションの歴史、デザインにおけるイラストレーションの役割、漫画とイラストレーションの関係を座学によって理解する。その上で、この3つの要素から個人のオリジナリティー溢れる作品が制作できる実習課題をこなしていく。										
4. 評価方法	<table><tr><td>授業出席</td><td>30%</td></tr><tr><td>授業への参加(発言・課題への取り組み)</td><td>70%</td></tr><tr><td>合計</td><td>100%</td></tr></table>					授業出席	30%	授業への参加(発言・課題への取り組み)	70%	合計	100%
授業出席	30%										
授業への参加(発言・課題への取り組み)	70%										
合計	100%										
5. テキスト	プリントを配布										
6. 履修上の留意事項	・授業は座学と自習の組み合わせで行う。 ・必ず実習のための画材、エスキース帳は用意すること。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。										

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科		
科目名	イラストレーションⅡ			講師 柳田・仲間
対象学年	2	単位数	2	講義形態 クラス
1. 講義の目標	現在の情報化社会では、文字情報を補助するイラストレーションなどが多く利用されている。そして、この図形、絵による視覚情報がこれからのデザインにおいて重要であることを理解、表現できることを目標とする。			
2. 講義内容	(1)           オリエンテーション (2)           漫画講座「コマ割りを描く」 (3)           漫画講座「コマ割りを描く」 (4)           デザイン①（漫画課題別途） (5)           デザイン②（漫画課題別途） (6)           デザイン③（漫画課題別途） (7)           イラストレーション実習①（漫画課題別途） (8)           イラストレーション実習②（漫画課題別途） (9)           デザイン④ (10)          デザイン⑤ (11)          漫画講座「作品を商業ベースにのせる」 (12)          イラストレーション実習① (13)          イラストレーション実習② (14)          イラストレーション実習③ (15)          講評会			
3. 教授法	イラストレーションの表現技法、パースペクティブ、背景描画法を学ぶことで多彩なイラストレーション表現できる力を身につける。 色彩感覚を磨くための課題や漫画講座などの幅広い観点からイラストレーションの多様性を探る。			
4. 評価方法	授業出席			30%
	授業への参加(発言・課題への取り組み)			70%
	合計			100%
5. テキスト	プリントを配布			
6. 履修上の留意事項	・授業は座学と自習の組み合わせで行う。 ・必ず実習のための画材、エスキース帳は用意すること。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。			

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科			
科目名	就職対策Ⅲ			講 師	三上・根本
対象学年	2	単位数	2	講義形態	
1. 講義の目標	アーティスト活動のための準備、展示企画能力、履歴書、面接対策、志望理由書、企画立案を身につける。就職では、企画力・プレゼンテーション力が大きなポイントとなるため、プレゼン能力、面接の基本動作、志望理由書の記入方法などを学ぶ。				
2. 講義内容	(1) オリエンテーション (2) 就職対策① 企業講演会 (3) 就職対策② アーティスト講演会 (4) 就職対策③ アーティスト講演会 (5) 就職対策④ ポートフォリオ作成 (6) 就職対策⑤ 面接対策実習1 (7) 就職対策⑥ 博物館実習 (8) 就職対策⑦ 展示計画・展示 (9) 就職対策⑧ 展示計画・展示 (10) 就職対策⑨ 展示計画・展示 (11) 就職対策⑩ 企業講演 (12) 就職対策⑪ 面接対策講義 (13) 就職対策⑫ 面接対策実習1 (14) 就職対策⑬ 面接対策実習2 (15) 就職対策⑭ 面接対策実習3				
3. 教授法	デザイン系就職活動、試験内容の講義。アーティスト講演、企業講演はオンライン授業とする。また配布プリント、実際の作品を使用し、クリエイターとしての総合力の習得を目指す。企画立案課題では、プレゼンテーション形式の講評会によって、表現力を養う。実習を中心とした課題を行う。実習課題後は、制作した作品を用い講義を行い、検証を行う。				
4. 評価方法	授業出席と発言 実技作品の成績			30% 70%	
	合計			100%	
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科			
科目名	就職対策Ⅳ			講 師	三上・根本
対象学年	2	単位数	2	講義形態	講義・実習
1. 講義の目標	アーティスト活動のための準備、展示企画能力、履歴書、面接対策、志望理由書、企画立案を身につける。就職では、企画力・プレゼンテーション力が大きなポイントとなるため、プレゼン能力、面接の基本動作、志望理由書の記入方法などを学ぶ。				
2. 講義内容	(1)                   オリエンテーション (2)                   就職対策①   企業講演会 (3)                   就職対策②   アーティスト講演会 (4)                   就職対策③   アーティスト講演会 (5)                   就職対策④   ポートフォリオ作成 (6)                   就職対策⑤   面接対策実習1 (7)                   就職対策⑥   博物館実習 (8)                   就職対策⑦   展示計画・展示 (9)                   就職対策⑧   展示計画・展示 (10)                  就職対策⑨   展示計画・展示 (11)                  就職対策⑩   企業講演 (12)                  就職対策⑪   面接対策講義 (13)                  就職対策⑫   面接対策実習1 (14)                  就職対策⑬   面接対策実習2 (15)                  就職対策⑭   面接対策実習3				
3. 教授法	デザイン系就職活動、試験内容の講義。アーティスト講演、企業講演、配布プリント、実際の作品を使用し、クリエイターとしての総合力の習得を目指す。企画立案課題では、プレゼンテーション形式の講評会によって、表現力を養う。実習を中心とした課題を行う。実習課題後は、制作した作品を用い講義を行い、検証を行う。授業での質疑応対に積極的に参加することを期待します。				
4. 評価方法	授業出席と発言 実技作品の成績			30% 70%	
	合計			100%	
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科			
科目名	課題研究Ⅰ			講 師	柳田・仲間
対象学年	1	単位数	2	講義形態	講義・実習
1. 講義の目標	ファインアート専攻では技法材料研究、デザイン専攻ではフォントデザイン研究を学ぶことで各専攻の幅広い分野での知識を身につけていきます。学術的知識と造形的知識が融合することで自身の新しい表現に近づけていく。				
2. 講義内容	(1)                   オリエンテーション (2)                   技法材料研究orフォントデザイン1   講義 (3)                   技法材料研究orフォントデザイン2   講義 (4)                   技法材料研究orフォントデザイン3   実習 (5)                   技法材料研究orフォントデザイン4   実習 (6)                   技法材料研究orフォントデザイン5   実習 (7)                   技法材料研究orフォントデザイン6   講評 (8)                   各専攻での個別課題1 (9)                   各専攻での個別課題2 (10)                  各専攻での個別課題3 (11)                  各専攻での個別課題4 (12)                  各専攻での個別課題5 (13)                  技法材料研究orフォントデザイン7   実習 (14)                  技法材料研究orフォントデザイン8   実習 (15)                  技法材料研究orフォントデザイン9   講評				
3. 教授法	専攻別課題。ファインアートでは技法材料に必要な描画材料を科学的に理解するための講義と実習を行います。また、デザイン専攻ではフォントデザインを学び、デザインの役割や個性と情報伝達の有効性を検証し、表現力と情報伝達能力を養います。実習課題後は、各自作品の検証を行う。				
4. 評価方法	授業出席と発言				

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科			
科目名	課題研究Ⅱ			講 師	柳田・仲間
対象学年	1	単位数	2	講義形態	講義・実習
1. 講義の目標	色彩研究の中で、コミュニケーションの基盤となる眼（視覚）や手（触覚）、声（聴覚）とそれらが複合して現れる意味空間の認知を基盤とし、形の生成、色彩、空間と環境、タイポ、絵画など様々な演習を行い、ビジュアルコミュニケーションを学ぶ。				
2. 講義内容	(1) 技法材料研究orフォントデザイン1 講義 (2) 技法材料研究orフォントデザイン2 講義 (3) 技法材料研究orフォントデザイン3 実習 (4) 技法材料研究orフォントデザイン4 実習 (5) 技法材料研究orフォントデザイン5 実習 (6) 技法材料研究orフォントデザイン6 講評 (7) 各専攻での個別課題1 (8) 各専攻での個別課題2 (9) 各専攻での個別課題3 (10) 各専攻での個別課題4 (11) 各専攻での個別課題5 (12) 技法材料研究orフォントデザイン7 実習 (13) 技法材料研究orフォントデザイン8 実習 (14) 技法材料研究orフォントデザイン9 講評 (15) 技法材料研究orフォントデザイン10 講評				
3. 教授法	専攻別課題。ファインアートでは技法材料に必要な描画材料を科学的に理解するための講義と実習を行います。また、デザイン専攻ではフォントデザインを学び、デザインの役割や個性と情報伝達の有効性を検証し、表現力と情報伝達能力を養います。実習課題後は、各自作品の検証を行う。				
4. 評価方法	授業出席と発言 30% 授業中の参加度、課題提出 70% <hr/> 合計 100%				
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				



2025年度	前期	国際コミュニケーション学科		
科目名	課題研究Ⅲ			講師 藤賀・小西
対象学年	2	単位数	2	講義形態 講義・実習
1. 講義の目標	ファインアート専攻では支持体研究、デザイン専攻ではフォントデザイン研究を学ぶことで各専攻の幅広い分野での知識を身につけていきます。学術的知識と造形的知識が融合することで自身の新しい表現に近づけていく。			
2. 講義内容	(1)                   オリエンテーション (2)                   支持体研究orフォントデザイン1   講義 (3)                   支持体研究orフォントデザイン2   講義 (4)                   支持体研究orフォントデザイン3   実習 (5)                   支持体研究orフォントデザイン4   実習 (6)                   支持体研究orフォントデザイン5   実習 (7)                   支持体研究orフォントデザイン6   講評 (8)                   各専攻での個別課題1 (9)                   各専攻での個別課題2 (10)                   各専攻での個別課題3 (11)                   各専攻での個別課題4 (12)                   各専攻での個別課題5 (13)                   個別カリキュラム実習1 (14)                   個別カリキュラム実習2 (15)                   個別カリキュラム実習3			
3. 教授法	専攻別課題。ファインアートは絵を描くために必要な描画材料と支持体を科学的に理解するための講義と実習を行います。また、デザイン専攻ではフォントデザインを学び、デザインの役割や個性と情報伝達の有効性を検証し、表現力と情報伝達能力を養います。実習課題後は、各自作品の検証を行う。			
4. 評価方法	授業出席と発言			

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科			
科目名	課題研究Ⅳ			講 師	藤賀・小西
対象学年	2	単位数	2	講義形態	講義・実習
1. 講義の目標	ファインアート専攻では支持体研究、デザイン専攻ではフォントデザイン研究を学ぶことで各専攻の幅広い分野での知識を身につけていきます。学術的知識と造形的知識が融合することで自身の新しい表現に近づけていく。				
2. 講義内容	(1)                   オリエンテーション (2)                   支持体研究orフォントデザイン1   講義 (3)                   支持体研究orフォントデザイン2   講義 (4)                   支持体研究orフォントデザイン3   実習 (5)                   支持体研究orフォントデザイン4   実習 (6)                   支持体研究orフォントデザイン5   実習 (7)                   支持体研究orフォントデザイン6   講評 (8)                   各専攻での個別課題1 (9)                   各専攻での個別課題2 (10)                   各専攻での個別課題3 (11)                   各専攻での個別課題4 (12)                   各専攻での個別課題5 (13)                   個別カリキュラム実習1 (14)                   個別カリキュラム実習2 (15)                   個別カリキュラム実習3				
3. 教授法	専攻別課題。ファインアートは絵を描くために必要な描画材料と支持体を科学的に理解するための講義と実習を行います。また、デザイン専攻ではフォントデザインを学び、デザインの役割や個性と情報伝達の有効性を検証し、表現力と情報伝達能力を養います。実習課題後は、各自作品の検証を行う。授業での質疑応対に積極的に参加することを期待します。				
4. 評価方法	授業出席と発言 授業中の参加度、課題提出			30% 70%	
	合計			100%	
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科			
科目名	フィールドワークⅠ			講 師	三上・加未
対象学年	1	単位数	2	講義形態	講義・実習
1. 講義の目標	アートフィールドワーク分野を研究する。クロッキー力、ドローイング、観察力を身につけることに主眼を置きながら、フィールドワークを学ぶ。また、美術的、文化的な内容を考え、様々なデッサンや絵画的手法を用いてコミュニケーションをとることを学ぶ。				
2. 講義内容	(1)                   オリエンテーション (2)                   フィールドワーク①   アートフィールドワーク論 (3)                   フィールドワーク②   クロッキー力（速写）を身につける (4)                   フィールドワーク③   クロッキー力（速写）を身につける (5)                   フィールドワーク④   取材方法論 (6)                   フィールドワーク⑤   表現と実習 1 (7)                   フィールドワーク⑥   表現と実習 2 (8)                   フィールドワーク⑦   実習 3   プレゼンテーション講評 (9)                   フィールドワーク⑧   アートによるコミュニケーション 1 (10)                  フィールドワーク⑨   アートによるコミュニケーション 2 (11)                  フィールドワーク⑩   観察と実習 1 (12)                  フィールドワーク⑪   観察と実習 2 (13)                  フィールドワーク⑫   観察と実習 3 (14)                  フィールドワーク⑬   実習・講評 (15)                  試験				
3. 教授法	アートフィールドワーク論についてのオンライン講義。配布プリント、実際の作品を使用し、観察と表現によって得た情報を図形化する試みと考察を加えることを目指す。プレゼンテーション形式の講評会によって、表現力と情報伝達能力を養う。講義と実習によって課題を行う。実習課題後は、作品の講評会を行い、検証を行う。授業の1/2は通信課題とオンライン授業にて実施。				
4. 評価方法	授業出席と発言 授業参加度、実技作品の成績			30% 70%	
	合計			100%	
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科																																																
科目名	フィールドワークⅡ			講 師	三上・加未																																													
対象学年	1	単位数	2	講義形態	講義・実習																																													
1. 講義の目標	アートフィールドワーク分野を研究する。クロッキー力、観察力を身につけることに主眼を置きながら、フィールドワークを学ぶ。また、美術的、文化的な内容を考え、様々なデッサンや絵画の手法を用いてコミュニケーションをとることを学ぶ。																																																	
2. 講義内容	<table><tr><td>(1)</td><td>オリエンテーション</td><td></td></tr><tr><td>(2)</td><td>フィールドワーク⑭</td><td>情報伝達とフィールドワーク</td></tr><tr><td>(3)</td><td>フィールドワーク⑮</td><td>デッサン実習</td></tr><tr><td>(4)</td><td>フィールドワーク⑯</td><td>デッサン実習</td></tr><tr><td>(5)</td><td>フィールドワーク⑰</td><td>スケッチと取材について概論</td></tr><tr><td>(6)</td><td>フィールドワーク⑱</td><td>屋外取材実習</td></tr><tr><td>(7)</td><td>フィールドワーク⑲</td><td>屋外取材実習</td></tr><tr><td>(8)</td><td>フィールドワーク⑳</td><td>スケッチと作品制作</td></tr><tr><td>(9)</td><td>フィールドワーク㉑</td><td>作品制作</td></tr><tr><td>(10)</td><td>フィールドワーク㉒</td><td>作品制作</td></tr><tr><td>(11)</td><td>フィールドワーク㉓</td><td>作品プレゼンテーション・講評</td></tr><tr><td>(12)</td><td>フィールドワーク㉔</td><td>実習</td></tr><tr><td>(13)</td><td>フィールドワーク㉕</td><td>実習</td></tr><tr><td>(14)</td><td>フィールドワーク㉖</td><td>実習・講評</td></tr><tr><td>(15)</td><td>試験</td><td></td></tr></table>					(1)	オリエンテーション		(2)	フィールドワーク⑭	情報伝達とフィールドワーク	(3)	フィールドワーク⑮	デッサン実習	(4)	フィールドワーク⑯	デッサン実習	(5)	フィールドワーク⑰	スケッチと取材について概論	(6)	フィールドワーク⑱	屋外取材実習	(7)	フィールドワーク⑲	屋外取材実習	(8)	フィールドワーク⑳	スケッチと作品制作	(9)	フィールドワーク㉑	作品制作	(10)	フィールドワーク㉒	作品制作	(11)	フィールドワーク㉓	作品プレゼンテーション・講評	(12)	フィールドワーク㉔	実習	(13)	フィールドワーク㉕	実習	(14)	フィールドワーク㉖	実習・講評	(15)	試験	
(1)	オリエンテーション																																																	
(2)	フィールドワーク⑭	情報伝達とフィールドワーク																																																
(3)	フィールドワーク⑮	デッサン実習																																																
(4)	フィールドワーク⑯	デッサン実習																																																
(5)	フィールドワーク⑰	スケッチと取材について概論																																																
(6)	フィールドワーク⑱	屋外取材実習																																																
(7)	フィールドワーク⑲	屋外取材実習																																																
(8)	フィールドワーク⑳	スケッチと作品制作																																																
(9)	フィールドワーク㉑	作品制作																																																
(10)	フィールドワーク㉒	作品制作																																																
(11)	フィールドワーク㉓	作品プレゼンテーション・講評																																																
(12)	フィールドワーク㉔	実習																																																
(13)	フィールドワーク㉕	実習																																																
(14)	フィールドワーク㉖	実習・講評																																																
(15)	試験																																																	
3. 教授法	アートフィールドワーク論についての講義。配布プリント、実際の作品を使用し、観察と表現によって得た情報を図形化する試みと考察を加えることを目指す。プレゼンテーション形式の講評会によって、表現力と情報伝達能力を養う。講義と実習によって課題を行う。実習課題後は、作品の講評会を行い、検証を行う。授業での質疑応対に積極的に参加することを期待します。																																																	
4. 評価方法	授業出席と発言 授業参加度、実技作品の成績				30% 70%																																													
	合計				100%																																													
5. テキスト	適宜プリントを配布します。																																																	
6. 参考文献	適宜に指定します。																																																	
7. 履修上の留意事項	<ul style="list-style-type: none"><li>・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。</li><li>・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。</li><li>・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。</li></ul>																																																	

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科		
科目名	プロジェクト研究 I		講 師	伊藤・柳田
対象学年	1	単位数	2	講義形態 実習
1. 講義の目標	各専攻の専門分野に合わせた個別カリキュラムと面談によって、自分だけのカリキュラムを作成し、各自の能力を磨く。自分の研究分野に合わせて必要な実技制作と技法研究を行うことでクリエイターとしての力を磨く			
2. 講義内容	(1) オリエンテーション (2) プロジェクト研究① 個別カリキュラム実習・面談1 (3) プロジェクト研究② 個別カリキュラム実習・面談2 (4) プロジェクト研究③ 個別カリキュラム実習・面談3 (5) プロジェクト研究④ 個別カリキュラム実習・面談4 (6) プロジェクト研究⑤ 個別カリキュラム実習・面談5 (7) プロジェクト研究⑥ 個別カリキュラム実習・面談6 (8) プロジェクト研究⑦ 作品発表・プレゼンテーション (9) プロジェクト研究⑧ 個別カリキュラム実習・面談7 (10) プロジェクト研究⑨ 個別カリキュラム実習・面談8 (11) プロジェクト研究⑩ 個別カリキュラム実習・面談9 (12) プロジェクト研究⑪ 個別カリキュラム実習・面談10 (13) プロジェクト研究⑫ 個別カリキュラム実習・面談11 (14) プロジェクト研究⑬ 個別カリキュラム実習・面談12 (15) プロジェクト研究⑭ 作品発表・プレゼンテーション			
3. 教授法	専攻別、個別カリキュラムで授業を実施。各担任が学生一人一人に合わせてカリキュラムを作成する。個別面談を行いながら、制作に対する問題点を明らかにしながら、課題を進める。実習課題後は、各自作品の検証を行う。			
4. 評価方法	授業出席と発言 30% 授業中の課題提出 70%  ===== 合計 100%			
5. テキスト	適宜プリントを配布します。			
6. 参考文献	適宜に指定します。			
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。			

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科																																																
科目名	プロジェクト研究Ⅱ			講 師	伊藤・柳田																																													
対象学年	2	単位数	2	講義形態	実習																																													
1. 講義の目標	各専攻の専門分野に合わせた個別カリキュラムと面談によって、自分だけのカリキュラムを作成し、各自の能力を磨く。自分の研究分野に合わせて必要な実技制作と技法研究を行うことでクリエイターとしての力を磨く																																																	
2. 講義内容	<table><tr><td>(1)</td><td>オリエンテーション</td><td></td></tr><tr><td>(2)</td><td>プロジェクト研究①</td><td>個別カリキュラム実習・面談1</td></tr><tr><td>(3)</td><td>プロジェクト研究②</td><td>個別カリキュラム実習・面談2</td></tr><tr><td>(4)</td><td>プロジェクト研究③</td><td>個別カリキュラム実習・面談3</td></tr><tr><td>(5)</td><td>プロジェクト研究④</td><td>個別カリキュラム実習・面談4</td></tr><tr><td>(6)</td><td>プロジェクト研究⑤</td><td>個別カリキュラム実習・面談5</td></tr><tr><td>(7)</td><td>プロジェクト研究⑥</td><td>個別カリキュラム実習・面談6</td></tr><tr><td>(8)</td><td>プロジェクト研究⑦</td><td>作品発表・プレゼンテーション</td></tr><tr><td>(9)</td><td>プロジェクト研究⑧</td><td>個別カリキュラム実習・面談7</td></tr><tr><td>(10)</td><td>プロジェクト研究⑨</td><td>個別カリキュラム実習・面談8</td></tr><tr><td>(11)</td><td>プロジェクト研究⑩</td><td>個別カリキュラム実習・面談9</td></tr><tr><td>(12)</td><td>プロジェクト研究⑪</td><td>個別カリキュラム実習・面談10</td></tr><tr><td>(13)</td><td>プロジェクト研究⑫</td><td>個別カリキュラム実習・面談11</td></tr><tr><td>(14)</td><td>プロジェクト研究⑬</td><td>個別カリキュラム実習・面談12</td></tr><tr><td>(15)</td><td>プロジェクト研究⑭</td><td>作品発表・プレゼンテーション</td></tr></table>					(1)	オリエンテーション		(2)	プロジェクト研究①	個別カリキュラム実習・面談1	(3)	プロジェクト研究②	個別カリキュラム実習・面談2	(4)	プロジェクト研究③	個別カリキュラム実習・面談3	(5)	プロジェクト研究④	個別カリキュラム実習・面談4	(6)	プロジェクト研究⑤	個別カリキュラム実習・面談5	(7)	プロジェクト研究⑥	個別カリキュラム実習・面談6	(8)	プロジェクト研究⑦	作品発表・プレゼンテーション	(9)	プロジェクト研究⑧	個別カリキュラム実習・面談7	(10)	プロジェクト研究⑨	個別カリキュラム実習・面談8	(11)	プロジェクト研究⑩	個別カリキュラム実習・面談9	(12)	プロジェクト研究⑪	個別カリキュラム実習・面談10	(13)	プロジェクト研究⑫	個別カリキュラム実習・面談11	(14)	プロジェクト研究⑬	個別カリキュラム実習・面談12	(15)	プロジェクト研究⑭	作品発表・プレゼンテーション
(1)	オリエンテーション																																																	
(2)	プロジェクト研究①	個別カリキュラム実習・面談1																																																
(3)	プロジェクト研究②	個別カリキュラム実習・面談2																																																
(4)	プロジェクト研究③	個別カリキュラム実習・面談3																																																
(5)	プロジェクト研究④	個別カリキュラム実習・面談4																																																
(6)	プロジェクト研究⑤	個別カリキュラム実習・面談5																																																
(7)	プロジェクト研究⑥	個別カリキュラム実習・面談6																																																
(8)	プロジェクト研究⑦	作品発表・プレゼンテーション																																																
(9)	プロジェクト研究⑧	個別カリキュラム実習・面談7																																																
(10)	プロジェクト研究⑨	個別カリキュラム実習・面談8																																																
(11)	プロジェクト研究⑩	個別カリキュラム実習・面談9																																																
(12)	プロジェクト研究⑪	個別カリキュラム実習・面談10																																																
(13)	プロジェクト研究⑫	個別カリキュラム実習・面談11																																																
(14)	プロジェクト研究⑬	個別カリキュラム実習・面談12																																																
(15)	プロジェクト研究⑭	作品発表・プレゼンテーション																																																
3. 教授法	専攻別、個別カリキュラムで授業を実施。各担任が学生一人一人に合わせてカリキュラムを作成する。個別面談を行いながら、制作に対する問題点を明らかにしながら、課題を進める。実習課題後は、各自作品の検証を行う。授業での質疑応対に積極的に参加することを期待します。																																																	
4. 評価方法	<table><tr><td>授業出席と発言</td><td>30%</td></tr><tr><td>授業中の課題提出</td><td>70%</td></tr><tr><td>合計</td><td>100%</td></tr></table>					授業出席と発言	30%	授業中の課題提出	70%	合計	100%																																							
授業出席と発言	30%																																																	
授業中の課題提出	70%																																																	
合計	100%																																																	
5. テキスト	適宜プリントを配布します。																																																	
6. 参考文献	適宜に指定します。																																																	
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。																																																	

2025年度	集中	国際コミュニケーション学科			
科目名	アートセラピー（集中講義）			講 師	三上
対象学年	2	単位数	2	講義形態	講義・実習
1．講義の目標	アートがセラピーの一部として芸術の創作活動自体を癒しとして扱う効果を踏まえて、アートセラピー実習を通してその効果とワークショップ例を体験しながらその可能性を探る。（客員講師 有賀三夏先生と合同授業）				
2．講義内容	(1)                   オリエンテーション (2)                   心理学① (3)                   心理学② (4)                   心理学③ (5)                   哲学① (6)                   哲学② (7)                   多重知能理論① (8)                   多重知能理論② (9)                   多重知能理論③ (10)                  多重知能理論④ (11)                  ワークショップ① (12)                  ワークショップ② (13)                  ワークショップ③ (14)                  ワークショップ④ (15)                  講評会				
3．教授法	心理学、哲学の基礎知識を学び、アートセラピーの基礎となる理論を知るための座学にて指導。その上でハワードガードナー博士が提唱する多重知能理論をもとにしながら、人間に隠された8つの才能からセラピーを考え、ワークショップを自ら体験し、実習を行う。そしてその効果と表現されるものを検証する。				
4．評価方法	授業出席と発言 出席  合計			50% 50%  100%	
5．テキスト	適宜プリントを配布します。				
6．参考文献	適宜に指定します。				
7．履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				

2025年度	集中	国際コミュニケーション学科		
科目名	アートセラピー（集中講義）			講 師 三上
対象学年	2	単位数	2	講義形態 講義・実習
1. 講義の目標	アートがセラピーの一部として芸術の創作活動自体を癒しとして扱う効果を踏まえて、アートセラピー実習を通してその効果とワークショップ例を体験しながらその可能性を探る。（客員講師 有賀三夏先生と合同授業）			
2. 講義内容	(1) オリエンテーション (2) アートセラピー① (3) アートセラピー② (4) アートセラピー③ (5) 実例検証① (6) 実例検証② (7) 実例検証③ (8) ワークショップ応用① (9) ワークショップ応用② (10) ワークショップ応用③ (11) ワークショップ応用④ (12) プレゼンテーション① (13) プレゼンテーション② (14) プレゼンテーション③ (15) 講評会			
3. 教授法	アートセラピーで実際に検証された結果や内容を教示する。その効果と内容を意識しながらワークショップを自ら体験し、実習を行う。そしてその効果と表現されるものを検証し、その上で全員が制作した作品の見学と学生同士のディスカッションにより、様々な共感を意識することを体験する。			
4. 評価方法	授業出席と発言 50% 出席 50% 合計 100%			
5. テキスト	適宜プリントを配布します。			
6. 参考文献	適宜に指定します。			
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。			



2025年度	前期	国際コミュニケーション学科		
科目名	国際時事問題研究 I			講 師 梅田
対象学年	2	単位数	2	講義形態 クラス
1. 講義の目標	本授業は、文化についてその概念を理解した上で、日本文化の代表的とされるものを事例として取り上げて解説する。しかしながら、日本文化と言ってもその範囲、種類は多岐にわたる。そこで本授業では、海外でも関心を持たれるものを取り上げ、その概要を解説する。その際、より具体的な事例を取り上げ、その事例を中心に検討し、持つ意味などを解説する。			
2. 講義内容	(1)           オリエンテーション (2)           表現 (3)           宗教観 (4)           労働観 (5)           死生観 (6)           少子化と地方 (7)           AIと現代社会 (8)           ハラスメント (9)           税と社会保障 (10)          現代日本へ入った異文化 (11)          異文化としての日本文化 (12)          映像（1） (13)          映像（2） (14)          復習（1） (15)          復習（2）			
3. 到達目標	① 日本人の行動原理を理解する。 ② 現代日本社会の課題について、背景などを理解する。			
4. 評価方法	授業参加度（出席、授業中の発言等） 期末試験 合計			50% 50% 100%
5. テキスト	特定の教科書等は使用せず、必要に応じてレジュメなどを配布する。			
6. 履修上の留意事項	・担当教員は実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。			

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科		
科目名	国際時事問題研究Ⅱ			講 師 梅田
対象学年	2	単位数	2	講義形態 クラス
1. 講義の目標	本授業では、社会的な事象を取り上げ、その事象の背景を取り上げ、その分析、評価の方法を身に付けることを目的とする。社会で起きる現象には、必ず、複数の原因が存在するものの、その見方、あるいは、分析、評価の方法については理解されていないことが多い。そこで、具体的な事例を取り上げながら、社会的な事象の分析の方法などを解説する。			
2. 講義内容	(1) 迷信の国際比較 (2) 自然災害と社会 (3) インバウンドとオーバーツーリズム (4) 国際化と日本社会 (5) 世界の浮世絵の出会い (6) 聖書の物語 (7) 宗教画の世界 (8) 贋作と世界史 (9) 金融商品としての絵画 (10) 絵画とイメージ戦略 (11) 技術革新と絵画 (12) 映像（1） (13) 映像（2） (14) 復習（1） (15) 復習（2）			
3. 到達目標	① 現代日本社会の課題について、背景などを理解する。 ② 世界史における芸術の位置づけを理解する。			
4. 評価方法	授業参加度（出席、授業中の発言等） 期末試験 合計			50% 50% 100%
5. テキスト	特定の教科書等は使用せず、必要に応じてレジュメなどを配布する。			
6. 履修上の留意事項	・担当教員は実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。			

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科			
科目名	イラストレーションⅢ			講 師	横田・小西
対象学年	2	単位数	2	講義形態	クラス
1. 講義の目標	現在の情報化社会では、文字情報を補助するイラストレーションなどが多く利用されている。そして、この図形、絵による視覚情報がこれからのデザインにおいて重要であることを理解、表現できることを目標とする。				
2. 講義内容	(1)           オリエンテーション (2)           イラストレーション概論 (3)           イラストレーション概論 (4)           絵本制作① (5)           絵本制作② (6)           漫画講座「物語と紙面」 (7)           イラストレーション実習①（漫画課題別途） (8)           イラストレーション実習②（漫画課題別途） (9)           デザイン①（漫画課題別途） (10)          デザイン②（漫画課題別途） (11)          デザイン③（漫画課題別途） (12)          イラストレーション実習③ (13)          イラストレーション実習④ (14)          イラストレーション実習⑤ (15)          講評会				
3. 到達目標	デザインにおけるイラストレーションの役割、漫画とイラストレーションの関係を理解する。ポートフォリオ作成につながるオリジナリティー溢れる作品が制作できる実習課題をこなしていく。				
4. 評価方法	授業出席				

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科		
科目名	イラストレーションⅣ			講 師 横田・小西
対象学年	2	単位数	2	講義形態 クラス
1. 講義の目標	現在の情報化社会では、文字情報を補助するイラストレーションなどが多く利用されている。そして、この図形、絵による視覚情報がこれからのデザインにおいて重要であることを理解、表現できることを目標とする。			
2. 講義内容	(1) オリエンテーション (2) 漫画講座「コマ割りを描く」 (3) 漫画講座「コマ割りを描く」 (4) デザイン①（漫画課題別途） (5) デザイン②（漫画課題別途） (6) デザイン③（漫画課題別途） (7) イラストレーション実習①（漫画課題別途） (8) イラストレーション実習②（漫画課題別途） (9) デザイン④ (10) デザイン⑤ (11) 漫画講座「作品を商業ベースにのせる」 (12) 自主課題① (13) 自主課題② (14) 自主課題③ (15) 講評会			
3. 到達目標	2年間の集大成となる卒業制作の先行的な研究となるイラストレーションの技法、表現研究をはじめとした自分の可能性を探る実習を行う。また、ポートフォリオ作成につながるオリジナリティー溢れる作品が制作できる実習課題をこなしていく。			
4. 評価方法	授業出席 30% 授業への参加（発言・課題への取り組み） 70% <div>-----</div> 合計 100%			
5. テキスト	プリントを配布			
6. 履修上の留意事項	・授業は座学と自習の組み合わせで行う。 ・必ず実習のための画材、エスキース帳は用意すること。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。			

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科			
科目名	ポップカルチャー研究Ⅰ			講 師	三上・根本
対象学年	2	単位数	2	講義形態	講義・実習
1. 講義の目標	日本で独自に発展した漫画・アニメ文化の特質を知るために、各専攻の実習を通して表現に関する知識の幅を広げる。現代の文化がこれまでの芸術文化と歴史的にどのようなつながりを持っているかを理解する。				
2. 講義内容	(1) オリエンテーション (2) 図法講義：アニメ表現を構成するパースについて (3) 構図講義：平面の画に奥行きをもたらす技術 (4) 色彩講義：色彩による表現 (5) 構成講義：独特のリアリティを生み出す構成 (6) 漫画講義（特別講義） (7) 各専攻での個別課題2 (8) 各専攻での個別課題：講評 (9) 各専攻での個別課題3 (10) 各専攻での個別課題4 (11) 各専攻での個別課題：講評 (12) 各専攻での個別課題5 (13) 各専攻での個別課題6 (14) 各専攻での個別課題：講評 (15) 学期末試験				
3. 教授法	現在の漫画、アニメが定着していることを踏まえ、デザインにおける漫画の役割、またイラストレーションにおける漫画の役割を考える。特別講師として漫画家の先生を迎え、社会で通用する漫画をもとにして日本のポップカルチャーを知る。毎課題ごとに講評会とプレゼンテーションを行う。授業での質疑応対に積極的に参加することを期待します。				
4. 評価方法	授業出席と発言 授業中の課題提出			30% 70%	
	合計			100%	
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科		
科目名	ポップカルチャー研究Ⅱ			講 師 三上・根本
対象学年	2	単位数	2	講義形態 講義・実習
1. 講義の目標	日本で独自に発展した漫画・アニメ文化の特質を知るために、実習を通して表現に関する諸要素的確な役割と技術を知る。歴史的経緯も参照しデジタル時代の表現についても掘り下げて授業を行う。			
2. 講義内容	(1)           オリエンテーション (2)           日本文化講義 (3)           漫画講義（特別講義） (4)           各専攻での個別課題1 (5)           各専攻での個別課題2 (6)           各専攻での個別課題:講評 (7)           各専攻での個別課題3 (8)           各専攻での個別課題4 (9)           各専攻での個別課題:講評 (10)          各専攻での個別課題5 (11)          漫画講義（特別講義） (12)          各専攻での個別課題7 (13)          各専攻での個別課題8 (14)          各専攻での個別課題:講評 (15)          学期末試験			
3. 教授法	現在の漫画、アニメが定着していることを踏まえ、デザインにおける漫画の役割、またイラストレーションにおける漫画の役割を考える。特別講師として漫画家山口つばさ先生を迎え、社会で通用する漫画をもとにして日本のポップカルチャーを知る。毎課題ごとに講評会とプレゼンテーションを行う。授業での質疑応対に積極的に参加することを期待します。			
4. 評価方法	授業出席と発言			

2025年度	前・後期	国際コミュニケーション学科		
科目名	卒業研究			講 師 三上・根本
対象学年	2	単位数	3	講義形態 実習
1. 講義の目標	各専攻の特色と技法などを踏まえ、自らが想像する世界観を表現できる力を養う。また、普段の制作では取り組むことのできない大型の作品や多くの調査を必要とする作品を制作し、自分の可能性を広げることを目標とする。			
2. 講義内容	(1) オリエンテーション (2) 実技演習① 作品案検討 (3) 実技演習② プレゼンテーション (4) 作品制作実習・研究論文制作③ (5) 作品制作実習・研究論文制作④ (6) 作品制作実習・研究論文制作⑤ (7) 作品制作実習・研究論文制作⑥ (8) 作品制作実習・研究論文制作⑦ (9) 作品制作実習・研究論文制作⑧ (10) 作品制作実習・研究論文制作⑨ (11) 作品制作実習・研究論文制作⑩ (12) 作品制作実習・研究論文制作⑪ (13) 作品制作実習・研究論文制作⑫ (14) 作品制作実習・研究論文制作⑬ (15) 講評会（作品展示）			
3. 教授法	各専攻の研究内容にあわせた大型作品制作または個別カリキュラムによる作品制作。2年生に向けて自分の研究主体となるものを選択し、その背景までを含めて調査する。その中から選ばれた要素をもとにして、一つの作品としてまとめ上げる。平面作品、立体作品は問わない。作品は、外部美術館等で展示を行い、展示会場の設営、運営、解説までを行う。平面作品、立体作品は問わない。			
4. 評価方法	授業出席と発言 授業中の課題提出			30% 70%
	合計			100%
5. テキスト	適宜プリントを配布します。			
6. 参考文献	適宜に指定します。			
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。			

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科		
科目名	造形総合演習 I			講 師 仲間・柳田
対象学年	1	単位数	2	講義形態 実習
1. 講義の目標	ファインアート専攻では素描と絵画の両面から技術を身に付け、デザイン専攻ではデザインの基礎能力、論文による問題可決能力を身につける。基礎能力をボトムアップすることで最終的な表現能力向上に結びつける。			
2. 講義内容	(1)                   オリエンテーション (2)                   ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム1（基礎） (3)                   ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム2（基礎） (4)                   ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム3（基礎） (5)                   ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム4（基礎） (6)                   ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム5（基礎） (7)                   ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム6（基礎） (8)                   ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム7（基礎） (9)                   ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム8（基礎） (10)                  ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム9（基礎） (11)                  ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム10（基礎） (12)                  ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム11（基礎） (13)                  ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム12（基礎） (14)                  ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム13（基礎） (15)                  合同講評会			
3. 教授法	個別面談を通して、各自の研究領域を確認する。研究領域に応じたカリキュラムを作成し、年間を通して制作と講評を行う。課題数、講評回数は研究内容に合わせて異なるが、学期末には合同講評を行う。課題制作後は、講評会という形で各自作品の検証を行う。授業での質疑応対に積極的に参加することを期待します。			
4. 評価方法	授業出席と発言 授業中の参加度、課題提出			30% 70%
	合計			100%
5. テキスト	適宜プリントを配布します。			
6. 参考文献	適宜に指定します。			
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。			



2025年度	後期	国際コミュニケーション学科		
科目名	造形総合演習Ⅱ			講 師 仲間・柳田
対象学年	1	単位数	2	講義形態 講義・実習
1. 講義の目標	ファインアート専攻では素描と絵画の両面から技術を身に付け、デザイン専攻ではデザインの基礎能力、論文による問題可決能力を身につける。基礎能力をボトムアップすることで最終的な表現能力向上に結びつける。			
2. 講義内容	(1) オリエンテーション (2) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム1（基礎） (3) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム2（基礎） (4) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム3（基礎） (5) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム4（基礎） (6) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム5（基礎） (7) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム6（基礎） (8) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム7（基礎） (9) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム8（基礎） (10) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム9（基礎） (11) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム10（基礎） (12) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム11（基礎） (13) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム12（基礎） (14) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム13（基礎） (15) 合同講評会			
3. 教授法	個別面談を通して、各自の研究領域を確認する。研究領域に応じたカリキュラムを作成し、年間を通して制作と講評を行う。課題数、講評回数は研究内容に合わせて異なるが、学期末には合同講評を行う。課題制作後は、講評会という形で各自作品の検証を行う。授業での質疑応対に積極的に参加することを期待します。			
4. 評価方法	授業出席と発言 30% 授業中の参加度、課題提出 70% 合計 100%			
5. テキスト	適宜プリントを配布します。			
6. 参考文献	適宜に指定します。			
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。			

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科			
科目名	造形総合演習Ⅲ			講 師	柳田・木南
対象学年	2	単位数	2	講義形態	実習
1. 講義の目標	ファインアート専攻では油絵、日本画の絵画作品の制作を通して表現力を身につける。デザイン専攻ではグラフィック、イラストレーションなど各専門研究領域の作品を制作することにより社会通用するデザイナーとしての素地を作り上げる。				
2. 講義内容	<div><div>(1)</div><div>オリエンテーション</div></div> <div><div>(2)</div><div>ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム1（応用）</div></div> <div><div>(3)</div><div>ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム2（応用）</div></div> <div><div>(4)</div><div>ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム3（応用）</div></div> <div><div>(5)</div><div>ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム4（応用）</div></div> <div><div>(6)</div><div>ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題 1</div></div> <div><div>(7)</div><div>ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題 2</div></div> <div><div>(8)</div><div>ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題 3</div></div> <div><div>(9)</div><div>ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題 4</div></div> <div><div>(10)</div><div>ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題 5</div></div> <div><div>(11)</div><div>ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム5（応用）</div></div> <div><div>(12)</div><div>ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム6（応用）</div></div> <div><div>(13)</div><div>ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム7（応用）</div></div> <div><div>(14)</div><div>ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム8（応用）</div></div> <div><div>(15)</div><div>合同講評会</div></div>				
3. 教授法	個別面談を通して、各自の研究領域を確認する。卒業後の創作活動、企業でのデザインワークに合わせてカリキュラムを作成し、年間を通して制作と講評を行う。課題数、講評回数は研究内容に合わせて異なるが、学期末には合同講評を行う。課題制作後は、講評会という形で各自作品の検証を行う。				
4. 評価方法	<div><div>授業出席と発言</div><div>30%</div></div> <div><div>授業中の参加度、課題提出</div><div>70%</div></div> <div><div>合計</div><div>100%</div></div>				
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	<div><div>・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。</div><div>・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。</div><div>・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。</div></div>				

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科			
科目名	造形総合演習Ⅳ			講 師	柳田・木南
対象学年	2	単位数	2	講義形態	講義・実習
1. 講義の目標	ファインアート専攻では油絵、日本画の絵画作品の制作を通して表現力を身につける。デザイン専攻ではグラフィック、イラストレーションなど各専門研究領域の作品を制作することにより社会通用するデザイナーとしての素地を作り上げる。				
2. 講義内容	(1)                   オリエンテーション (2)                   ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム1（応用） (3)                   ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム2（応用） (4)                   ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム3（応用） (5)                   ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム4（応用） (6)                   ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題 1 (7)                   ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題 2 (8)                   ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題 3 (9)                   ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題 4 (10)                  ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題 5 (11)                  ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム5（応用） (12)                  ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム6（応用） (13)                  ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム7（応用） (14)                  ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム8（応用） (15)                  合同講評会				
3. 教授法	個別面談を通して、各自の研究領域を確認する。卒業後の創作活動、企業でのデザインワークに合わせてカリキュラムを作成し、年間を通して制作と講評を行う。課題数、講評回数は研究内容に合わせて異なるが、学期末には合同講評を行う。課題制作後は、講評会という形で各自作品の検証を行う。授業での質疑応対に積極的に参加することを期待します。				
4. 評価方法	授業出席と発言 授業中の参加度、課題提出				30% 70%
	合計				100%
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科			
科目名	構成演習Ⅰ			講 師	柳田・仲間
対象学年	1	単位数	2	講義形態	実習
1. 講義の目標	ファインアート専攻では絵画表現における構成と色彩の関係を探ることで自身の自己表現へ結びつける。デザイン専攻ではグラフィックデザイン、イラストレーションなどにおける構成の手法と色彩の関係を習得する。				
2. 講義内容	(1) オリエンテーション (2) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題1（基礎） (3) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題2（基礎） (4) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題3（基礎） (5) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題4（基礎） (6) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム1 (7) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム2 (8) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム3 (9) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム4 (10) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム5 (11) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題5（基礎） (12) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題6（基礎） (13) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題7（基礎） (14) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題8（基礎） (15) 合同講評会				
3. 教授法	個別面談を通して、各自の研究領域を確認する。研究領域に応じた課題を選択し、作品制作を行う。作品は、年間を通して講評を行うが、その課題数、講評回数は研究内容に合わせて異なる。学期末には合同講評を行う。課題制作後は、講評会という形で各自作品の検証を行う。				
4. 評価方法	授業出席と発言 授業中の参加度、課題提出			30% 70%	
	合計			100%	
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科			
科目名	構成演習Ⅱ			講 師	柳田・仲間
対象学年	1	単位数	2	講義形態	講義・実習
1. 講義の目標	ファインアート専攻では絵画表現における構成と色彩の関係を探ることで自身の自己表現へ結びつける。デザイン専攻ではグラフィックデザイン、イラストレーションなどにおける構成の手法と色彩の関係を習得する。				
2. 講義内容	(1) オリエンテーション (2) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題1（基礎） (3) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題2（基礎） (4) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題3（基礎） (5) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題4（基礎） (6) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム1 (7) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム2 (8) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム3 (9) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム4 (10) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム5 (11) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題5（基礎） (12) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題6（基礎） (13) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題7（基礎） (14) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題8（基礎） (15) 合同講評会				
3. 教授法	個別面談を通して、各自の研究領域を確認する。研究領域に応じた課題を選択し、作品制作を行う。作品は、年間を通して講評を行うが、その課題数、講評回数は研究内容に合わせて異なる。学期末には合同講評を行う。課題制作後は、講評会という形で各自作品の検証を行う。授業での質疑応対に積極的に参加することを期待する。				
4. 評価方法	授業出席と発言 授業中の参加度、課題提出			30% 70%	
	合計			100%	
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科		
科目名	構成演習Ⅲ			講 師 藤賀・小西
対象学年	2	単位数	2	講義形態 実習
1. 講義の目標	ファインアート専攻では絵画表現における構成と色彩の関係を探ることで自身の自己表現へ結びつける。デザイン専攻ではグラフィックデザイン、イラストレーションなどにおける構成の手法と色彩の関係を習得する。			
2. 講義内容	(1) オリエンテーション (2) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題1（基礎） (3) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題2（基礎） (4) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題3（基礎） (5) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題4（基礎） (6) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム1 (7) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム2 (8) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム3 (9) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム4 (10) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム5 (11) ファインアート・デザイン専攻での自主制作課題5（基礎） (12) ファインアート・デザイン専攻での自主制作課題6（基礎） (13) ファインアート・デザイン専攻での自主制作課題7（基礎） (14) ファインアート・デザイン専攻での自主制作課題8（基礎） (15) 合同講評会			
3. 教授法	個別面談を通して、各自の研究領域を確認する。研究領域に応じた課題を選択し、作品制作を行う。作品は、年間を通して講評を行う中で構成要素について習得していく。その課題数、講評回数は研究内容に合わせて異なる。学期末には自主制作作品の合同講評を行う。課題制作後は、講評会という形で各自作品の検証を行う。授業での質疑応対に積極的に参加することを期待する。			
4. 評価方法	授業出席と発言 30% 授業中の参加度、課題提出 70% 合計 100%			
5. テキスト	適宜プリントを配布します。			
6. 参考文献	適宜に指定します。			
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。			

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科		
科目名	構成演習Ⅳ			講 師 藤賀・小西
対象学年	2	単位数	2	講義形態 講義・実習
1. 講義の目標	ファインアート専攻では絵画表現における構成と色彩の関係を探ることで自身の自己表現へ結びつける。デザイン専攻ではグラフィックデザイン、イラストレーションなどにおける構成の手法と色彩の関係を習得する。			
2. 講義内容	(1) オリエンテーション (2) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題1（基礎） (3) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題2（基礎） (4) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題3（基礎） (5) ファインアート・デザイン専攻での自由選択課題4（基礎） (6) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム1 (7) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム2 (8) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム3 (9) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム4 (10) ファインアート・デザイン専攻での個別カリキュラム5 (11) ファインアート・デザイン専攻での自主制作課題5（基礎） (12) ファインアート・デザイン専攻での自主制作課題6（基礎） (13) ファインアート・デザイン専攻での自主制作課題7（基礎） (14) ファインアート・デザイン専攻での自主制作課題8（基礎） (15) 合同講評会			
3. 教授法	個別面談を通して、各自の研究領域を確認する。研究領域に応じた課題を選択し、作品制作を行う。作品は、年間を通して講評を行う中で構成要素について習得していく。その課題数、講評回数は研究内容に合わせて異なる。学期末には自主制作作品の合同講評を行う。課題制作後は、講評会という形で各自作品の検証を行う。授業での質疑応対に積極的に参加することを期待する。			
4. 評価方法	授業出席と発言 30% 授業中の参加度、課題提出 70% 合計 100%			
5. テキスト	適宜プリントを配布します。			
6. 参考文献	適宜に指定します。			
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。			

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科			
科目名	造形専門演習 I			講 師	柳田・木南
対象学年	1	単位数	2	講義形態	実習
1. 講義の目標	ファインアート（油絵・日本画）・デザイン専攻（グラフィック・イラストレーション・総合デザイン）の各分野において専門的に必要な知識と技術を身に付け、各自が各分野の専門家として活躍できる力を身につける。				
2. 講義内容	(1)           オリエンテーション (2)           各専攻・専門分野：講義（選択制） (3)           各専攻・専門分野：技法・材料講義と解説（選択制） (4)           各専攻・専門分野：作品制作1（個別カリキュラム） (5)           各専攻・専門分野：作品制作2（個別カリキュラム） (6)           各専攻・専門分野：作品制作3（個別カリキュラム） (7)           各専攻・専門分野：講評（個別カリキュラム） (8)           各専攻・専門分野：作品制作4（個別カリキュラム） (9)           各専攻・専門分野：作品制作5（個別カリキュラム） (10)          各専攻・専門分野：作品制作6（個別カリキュラム） (11)          各専攻・専門分野：講評（個別カリキュラム） (12)          各専攻・専門分野：作品制作7（個別カリキュラム） (13)          各専攻・専門分野：作品制作8（個別カリキュラム） (14)          各専攻・専門分野：作品制作9（個別カリキュラム） (15)          各専攻・専門分野：講評（個別カリキュラム）				
3. 教授法	学生の研究内容に合わせて個別に指導、個別にデモンストレーションを行いながら作品を制作する。課題数、講評回数は研究内容に合わせて異なる。課題制作後は、講評会という形で各自作品の検証を行う。				
4. 評価方法	授業出席と発言 授業中の参加度、課題提出			30% 70%	
	合計			100%	
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				



2025年度	後期	国際コミュニケーション学科			
科目名	造形専門演習Ⅱ			講 師	柳田・木南
対象学年	1	単位数	2	講義形態	講義・実習
1. 講義の目標	ファインアート（油絵・日本画）・デザイン専攻（グラフィック・イラストレーション・総合デザイン）の各分野において専門的に必要な知識と技術を身に付け、各自が各分野の専門家として活躍できる力を身につける。				
2. 講義内容	(1)           オリエンテーション (2)           各専攻・専門分野：講義（選択制） (3)           各専攻・専門分野：技法・材料講義と解説（選択制） (4)           各専攻・専門分野：作品制作1（個別カリキュラム） (5)           各専攻・専門分野：作品制作2（個別カリキュラム） (6)           各専攻・専門分野：作品制作3（個別カリキュラム） (7)           各専攻・専門分野：講評（個別カリキュラム） (8)           各専攻・専門分野：作品制作4（個別カリキュラム） (9)           各専攻・専門分野：作品制作5（個別カリキュラム） (10)          各専攻・専門分野：作品制作6（個別カリキュラム） (11)          各専攻・専門分野：講評（個別カリキュラム） (12)          各専攻・専門分野：作品制作7（個別カリキュラム） (13)          各専攻・専門分野：作品制作8（個別カリキュラム） (14)          各専攻・専門分野：作品制作9（個別カリキュラム） (15)          各専攻・専門分野：講評（個別カリキュラム）				
3. 教授法	学生の研究内容に合わせて個別に指導、個別にデモンストレーションを行いながら作品を制作する。課題数、講評回数は研究内容に合わせて異なる。課題制作後は、講評会という形で各自作品の検証を行う。授業での質疑応対に積極的に参加することを期待します。				
4. 評価方法	授業出席と発言 授業中の参加度、課題提出			30% 70%	
	合計			100%	
5. テキスト	適宜プリントを配布します。				
6. 参考文献	適宜に指定します。				
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。				

2025年度	前期	国際コミュニケーション学科		
科目名	造形専門演習Ⅲ			講 師 柳田・木南
対象学年	2	単位数	2	講義形態 実習
1. 講義の目標	ファインアート（油絵・日本画）・デザイン専攻（グラフィック・イラストレーション・総合デザイン）の各分野において専門的に必要な知識と技術を身に付け、各自が各分野の専門家として社会で活躍できる造形力と企画力を身につける。			
2. 講義内容	(1) オリエンテーション (2) 各専攻・専門分野：作品制作1（個別カリキュラム） (3) 各専攻・専門分野：作品制作2（個別カリキュラム） (4) 各専攻・専門分野：作品制作3（個別カリキュラム） (5) 各専攻・専門分野：講評（個別カリキュラム） (6) 各専攻・専門分野：研究論文or研究制作1 (7) 各専攻・専門分野：研究論文or研究制作2 (8) 各専攻・専門分野：研究論文or研究制作3 (9) 各専攻・専門分野：研究論文or研究制作4 (10) 各専攻・専門分野：研究論文or研究制作5 (11) 各専攻・専門分野：研究論文or研究制作6 (12) 各専攻・専門分野：作品制作4（個別カリキュラム） (13) 各専攻・専門分野：作品制作5（個別カリキュラム） (14) 各専攻・専門分野：作品制作6（個別カリキュラム） (15) 各専攻・専門分野：講評（個別カリキュラム）			
3. 教授法	学生の研究内容に合わせて個別に指導、個別にデモンストレーションを行いながら自らが研究する作品を制作する。課題数、講評、プレゼンテーションの回数は研究内容に合わせて異なる。課題制作後は、講評会という形で各自作品の検証を行う。			
4. 評価方法	授業出席と発言 授業中の参加度、課題提出			30% 70%
	合計			100%
5. テキスト	適宜プリントを配布します。			
6. 参考文献	適宜に指定します。			
7. 履修上の留意事項	・実習制作に必要な道具一式をご用意ください。 ・エスキース、講評内容を控えるエスキース帳をご用意ください。 ・担当教員はデザイナー・イラストレーター・漫画家としての実務経験を基に、実技から講義まで幅広い授業を展開する。			

2025年度	後期	国際コミュニケーション学科			
科目名	造形専門演習Ⅳ			講 師	柳田・木南
対象学年	2	単位数	2	講義形態	講義・実習
1. 講義の目標	ファインアート専攻では油絵、日本画の絵画作品の制作を通して表現力を身につける。デザイン専攻ではグラフィック、イラストレーションなど各専門研究領域の作品を制作することにより社会通用するデザイナーとしての素地を作り上げる。				
2. 講義内容	(1)                   オリエンテーション (2)                   各専攻・専門分野：作品制作1（個別カリキュラム） (3)                   各専攻・専門分野：作品制作2（個別カリキュラム） (4)                   各専攻・専門分野：作品制作3（個別カリキュラム） (5)                   各専攻・専門分野：講評 (6)                   各専攻・専門分野：作品制作4（個別カリキュラム） (7)                   各専攻・専門分野：作品制作5（個別カリキュラム） (8)                   各専攻・専門分野：講評（個別カリキュラム） (9)                   各専攻・専門分野：研究論文or研究制作1 (10)                  各専攻・専門分野：研究論文or研究制作2 (11)                  各専攻・専門分野：研究論文or研究制作3 (12)                  各専攻・専門分野：研究論文or研究制作4 (13)                  各専攻・専門分野：研究論文or研究制作5 (14)                  各専攻・専門分野：研究論文or研究制作6 (15)                  合同講評会				
3. 教授法	学生の研究内容に合わせて個別に指導、個別にデモンストレーションを行いながら自らが研究する作品を制作する。課題数、講評、プレゼンテーションの回数は研究内容に合わせて異なる。課題制作後は、講評会という形で各自作品の検証を行う。				
4. 評価方法	授業出席と発言				